

夢中になれる 大好きな お推しはありますか？

時間やお金に余裕がないから無理…好きだけど才能がないから…
続けても意味がない…などと、
好きなことをあきらめたり、我慢してしまっはいませんか？
自分の「好き」にまっしぐらな（まるで、あきらめたり、
我慢したりすることなんて無関係のような）10人の仲間たちをご紹介します！

きょうりゅう きょうりゅう
けごん
ありがとうごさい
HANSIN
Kibounoie K.D.
2023
MORE POWER
BREAKING
BBYS

※本文中の「中等部」「高等部」という表記は「特別支援学校中等部・高等部」の略になります。

図書館に歩いて出かけ、大好きな絵本を借りるのが楽しみ！

もの心ついた頃から、絵本に強い興味を示していたという小澤さん。特別支援学校卒業後、希望の家深大寺に通い、日中活動で音楽を聴いたり、絵本を読み、気分の良い時は音読もする。小澤さんの楽しみは、近所の深大寺図書館に絵本を借りに行くこと。何冊も借りたくなってしまうので、職員と、「一冊返して一冊借りる」と約束している。施設から200メートルほどの図書館の道のりを、小澤さんが決めたルートで職員と歩く。到着すると絵本コーナーの本棚の前に座り込み、一冊ずつ出しては眺めて戻すことを繰り返す。楽しみながら、迷いながら、「これにする！」と、小澤さんのハートを掴んだ今日の一冊が決定！

おざわ こまき
小澤こま祈さん Komaki Ozawa
通所 希望の家深大寺

わたしの推し
絵本

調布市文化会館たづくりの写真展から鉄道写真家になることが夢！

鉄道ファンの兄の影響で、3才の時から鉄道が好きになったという尾崎さん。特別支援学校卒業後、しごと場大好きに通い、カフェに関わる仕事を真面目に続け、仕事で貯金したお金で念願だったマイカメラを購入。休日にはカメラを持って様々な駅に出かけている。「鉄道はイケメンの友達であり、かけがえのない存在です」と微笑みながら、撮影写真を沿線別に整理した5冊のアルバムを開き、それぞれの車両について詳しく説明してくれた。しっかり働いて、休日はしっかり趣味を満喫している尾崎さん。「いつか、たづくりの1階展示室で写真展を開いて、鉄道写真家になるのが夢なんです！」と明るく話してくれた。

おざき まこ
尾崎真子さん Mako Ozaki
通所 しごと場大好き & カフェ大好き

わたしの推し
金矢道

調布市福祉作業所等連絡会は、

調布市内にある「障がいのある人の仕事や活動の場」
（障害者総合支援法の就労継続支援B型事業所や生活介護等のサービスを実施する事業所）のほか、
「障がいのある子どもの療育と放課後・余暇活動の場」
（児童福祉法にもとづく放課後等デイサービス事業所等）などが
加盟している団体です。

「わくわ〜く」は、障がいのある幅広い年齢層の人たちが
「わくわくしながら働き、暮らせるよう」エールを送りながら、
一般市民の方々に福祉を知ってもらいたいと、春と秋の年2回、発行しています。

制作には団体内の有志が編集委員として参加しています。
今号は利用者の方々のパワフルな大好き推しパワーを
ワンテーマでお届けしましたが、いかがでしたでしょうか。
ご感想など、ぜひお気軽にお寄せください！

わくわ〜く

『わくわ〜く 26号』2025年春発行 発行：調布市福祉作業所等連絡会
調布市布田 2-26-8-101 TEL 042-481-3201 fuku-renraku@tbz.t-com.ne.jp
編集：羽塚順子(MotherNess Publishing) デザイン：深瀬美帆 写真：出原れい

調布の福祉をクリエイティブにするマガジン

vol. 26

あなたの お推しは なんですか？

夢中になれる「大好きパワー」は、生きるチカラだ！

子どもの頃から好きな**折り紙**、施設の壁面大作を毎月更新！

和紙の折り紙教室に通い、習った折り紙の作り方をスクラップブックにまとめながら、作品を生み出し続けている青木さん。若い頃に脳梗塞で倒れて以来、右半身に麻痺が残り、きき手が使えなくなったが、めじろ作業所に通所するようになり、子どもの頃から好きだった折り紙を勧められ、夢中になって早18年。折り紙教室の川島先生には「片手でここまで見事にできる人を見たことがない」と褒められるそう。作業所1階の壁面には、青木さんの折り紙作品が、大きなスペースで飾られている。作品は毎月更新され、カフェギャラリーさえずりでも色紙付きで飾られている。言葉少なに噛みしめながら「私にとって折り紙は愛情。今度は花束をつくりたいです」と、話してくれた。



あおき りえ
青木里衣さん Rie Aoki
通所 めじろ作業所



休日の**マラソン大会出場**と練習、スポーツ観戦にと大忙し！

中等部3年生の時、マラソン大会で準優勝を経験してから、長距離練習を続けている酒井さん。特別支援学校卒業後、はあと・ふる・えりあに通所しながら、休日には数々のマラソン大会に出場。「完走した時が最高です」と言う。昨年はグループホームの職員も一緒にマラソン大会ヘントリーしたが、酒井さんの足が速く、みるみる背中が遠くなったそう。酒井さんはマラソン選手だった谷川真理さんのファンで、葉書を送っては返事をもらう仲。また、スポーツ熱はマラソンにとどまらず、駅伝の応援、野球は阪神タイガース、サッカーはFC東京と、ファングッズで身を固め、TV観戦にも熱くなる。次のマラソン大会への出場に向け、体調を整え、準備中だ。



さかい やすゆき
酒井康行さん Yasuyuki Sakai
通所 はあと・ふる・えりあ + グループホームウィルステップ



好きで描く**電車の絵**が、事業所の自主製品グッズに！

車両を横から見た同じパターンで、沿線別に色のラインを塗っていく小泉さん。描かれた絵は、通所する希望の家本場の室内の壁一面に飾られている。小さい頃から電車のおもちゃを並べて眺めることが好きで、特別支援学校中等部の頃には、毎週末、母親にせがんで電車がよく見える川べりの線路近くに出かけて眺めていたという。高等部卒業後は施設で描く電車が職員の間で「かわいい」と評判になり、絵をワンポイントにしたメモ帳グッズが自主製品として販売された。得意な音読で日直の日は大きな声で出席をとり、集中して電車の絵を一気に描き上げた後は疲れてバタリと横になり、周囲のみんなを和ませている、愛されキャラだ。



こいずみ だい
小泉大さん Dai Koizumi
通所 調布市希望の家 本場

ブレイクダンスの「バトルオブザイヤー・ジャパン」にも出場！

ブレイクダンサー Koking (コーキング) として数々のステージに立ち、高度な技を繰り出す泉さん。小学2年でダンスを習い始め、中等部の頃に出会った路上のブレイクダンスパフォーマンスに魅了され、吸い込まれるように近寄る姿を見て、ご両親は泉さんを横浜までのレッスンに週2回、連れて行くようになった。今ではブレイクダンス最高峰の世界大会に向けた「BATTLE OF THE YEAR 2023 JAPAN」に出場、パラリンピック開会式バックダンサーにも選出されるレベル。ハードなレッスンは母親と励まし合いながら続け、「これからも頑張ります！」と元気に宣言。平日の仕事は、わかば第一事業所で自動車部品の組み立てを担当、サッカーや音楽も楽しんでいる。



いずみ こうき
泉 亘輝さん Kouki Izumi
通所 わかば第一事業所



わたしの**押し** **消しゴムハンコ**



あっという間に器用に彫りあげる、繊細な**消しゴムハンコ**！

小さな消しゴムに赤ペンで描いた文字をデザインカッターで丁寧に彫り、ハンコに仕上げる。「わくわく」の彫り文字も、もの数分で仕上げてくれた勝木さん。20代の頃のオートバイ事故で脳に後遺症が残り、「高次脳機能障がい」と診断され、調布ドリームに通うようになった。活動の中で、仏像の下絵に和紙を載せて細筆でなぞり描いた繊細な作品がアート展で展示され、高く評価されたのだが、その後は手先の器用さを活かして消しゴムハンコを彫るようになっていった。今では週5日は外車専門の洗車業務をしながら、地域の催事で「消しゴムハンコ師」としてお客様から注文を受け、調布ドリームのメンバーとして頼りにされている。



かつぎ しんじ
勝木信次さん Shinji Katsuki
一般就労 + 調布ドリーム

わたしの**押し** **でししゃのしやしん**



自前のプリント電車Tシャツを着て、水泳では**金メダル**も受賞！

電車の写真を撮ることが好きな竹内さんのお気に入り、地元の京王線。カメラを持って片膝をついた決めポーズで電車をパシャリ。かっこよく撮影できた画像は、Tシャツに印刷するサービスを使って、「プリント電車Tシャツ」をつくるのが趣味だ。「見て！これかっこいいでしょ！」と大好きなシャツを笑顔でみんなに見せながら、褒められると「やったー！うれしい！」と飛び跳ね、全身で喜びを表現する。股関節に障がいのある竹内さんは、高等部時代から専門の先生が指導する水泳教室 GAGANIに通うようになり、その練習にも励んでいる。昨年の東京都障害者スポーツ大会では、年齢別 25m 自由形で金メダルを受賞！



たけうち しょうご
竹内翔吾さん Shogo Takeuchi
通所 調布市希望の家 分場 + グループホーム us 西調布

大好きな**キャラクター**のおまけをずらりと並べてご機嫌！

子どもの頃からキャラクターとパズルが好きで、1000ピースのディズニーパズルも仕上げていたという小山さん。特別支援学校卒業後、しごと場大好きに通い、技術が必要な「組み紐」やクッキー袋用のシール切り貼りなどを丁寧に仕上げている。きちんと並べ整えることが好きな小山さんがハマっているのは、入浴剤に付いてくるおまけ収集。週末にグループホームから家に帰ると、母親と買い物に出かけ、袋入りの丸いバスボム入浴剤を購入。浴槽の湯で溶けるバスボムの中から小さなキャラクターが姿を現す。週に2回だけ使うと約束しているこの入浴剤のおまけが、今では数え切れないほど集まり、小山さんはキャラクターたちに囲まれた部屋で過ごしている。



こやま ともこ
小山知子さん Tomoko Koyama
通所 しごと場大好き + グループホームパンプキン

わたしの**押し** **おまけあつめ**



わたしの**押し** **漫画**

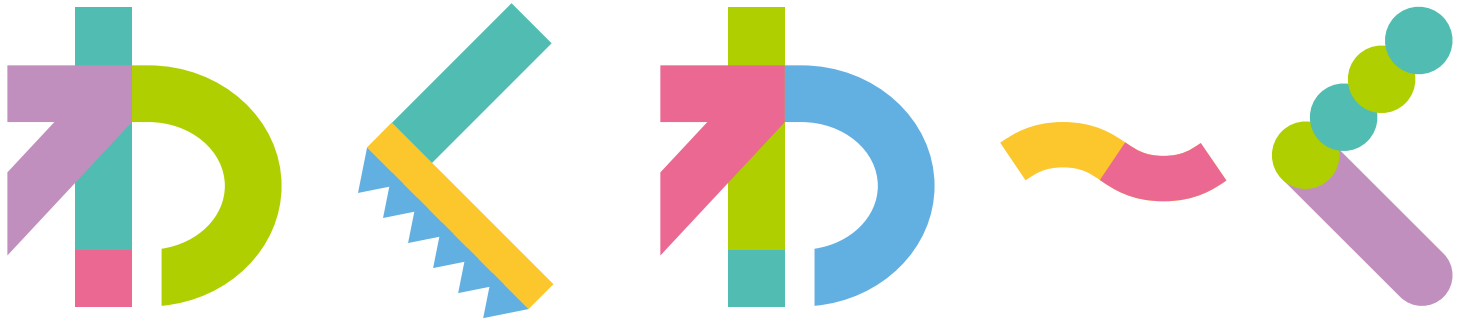


大手出版社の漫画雑誌で**3度受賞**した実力派！

小学校1年生の頃から漫画家に憧れ、宮崎県から上京して漫画専門学校に通い、卒業後は20歳から漫画家のアシスタントとして働いていた櫻さん。夜に目が見えなくなったり、自転車に気づかずぶつかってしまったことで、「網膜色素変性症(もうまくしそへんせいしょう)」という進行性の難病であることがわかった。めじろ作業所に2年前から通い、週3回パソコンの練習をしながら、カレンダーやお便りのイラストを描いている。漫画作品は一人で原作から4作を仕上げ、大手出版社漫画雑誌で奨励賞2回と努力賞1回を受賞。「ずっと漫画家になるのが夢だったので、人を楽しんでもらえる漫画を、目が見えるうちにできるだけたくさん描きたいです」と、言葉を選びながら話してくれた。



さくら しょうま
櫻 翔真さん Shoma Sakura
通所 めじろ作業所



あなたの **お推し**は なんですか？

夢中になれる「大好きパワー」は、生きるチカラだ！



夢中になれる

大好きな

お推しはありますか？

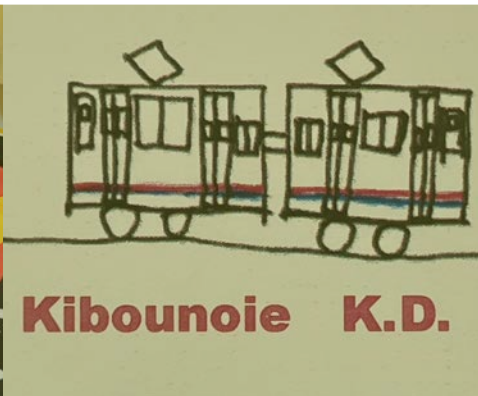
時間やお金に余裕がないから無理… 好きだけど才能がないから…

続けても意味がない…などと、

好きなことをあきらめたり、我慢してしまっはいませんか？

自分の「好き」にまっしぐらな（まるで、あきらめたり、

我慢したりすることなんて無関係のような）10人の仲間たちをご紹介します！



図書館に歩いて出かけ、大好きな絵本を借りるのが楽しみ！

もの心ついた頃から、絵本に強い興味を示していたという小澤さん。特別支援学校卒業後、希望の家深大寺に通い、日中活動で音楽を聴いたり、絵本を読み、気分の良い時は音読もする。小澤さんの楽しみは、近所の深大寺図書館に絵本を借りに行くこと。何冊も借りたくなってしまうので、職員と、「一冊返して一冊借りる」と約束している。施設から200メートルほどの図書館の道のりを、小澤さんが決めたルートで職員と歩く。到着すると絵本コーナーの本棚の前に座り込み、一冊ずつ出しては眺めて戻すことを繰り返す。楽しみながら、迷いながら、「これにする！」と、小澤さんのハートを掴んだ今日の一冊が決定！



おざわ こまき
小澤こま祈さん Komaki Ozawa
通所 希望の家深大寺

絵本 わたしの推し

調布市文化会館たづくりの写真展から鉄道写真家になることが夢！

鉄道ファンの兄の影響で、3才の時から鉄道が好きになったという尾崎さん。特別支援学校卒業後、しごと場大好きに通い、カフェに関わる仕事を真面目に続け、仕事で貯金したお金で念願だったマイカメラを購入。休日にはカメラを持って様々な駅に出かけている。「鉄道はイケメンの友達であり、かけがえのない存在です」と微笑みながら、撮影写真を沿線別に整理した5冊のアルバムを開き、それぞれの車両について詳しく説明をしてくれた。しっかり働いて、休日はしっかり趣味を満喫している尾崎さん。「いつか、たづくりの1階展示室で写真展を開いて、鉄道写真家になるのが夢なんです！」と明るく話してくれた。



おざき まこ
尾崎真子さん Mako Ozaki

通所 しごと場大好き & カフェ大好き

1♡
金失道

わたしの推し



子どもの頃から好きな折り紙、施設の壁面大作を毎月更新！

和紙の折り紙教室に通い、習った折り紙の作り方をスクラップブックにまとめながら、作品を生み出し続けている青木さん。若い頃に脳梗塞で倒れて以来、右半身に麻痺が残り、きき手が使えなくなったが、めじろ作業所に通所するようになり、子どもの頃から好きだった折り紙を勧められ、夢中になって早18年。折り紙教室の川島先生には「片手でここまで見事にできる人を見たことがない」と褒められるそう。作業所1階の壁面には、青木さんの折り紙作品が、大きなスペースで飾られている。作品は毎月更新され、カフェギャラリーさえずりでも色紙付きで飾られている。言葉少なに噛みしめながら「私にとって折り紙は愛情。今度は花束をつくりたいです」と、話してくれた。



あおき りえ

青木里衣さん Rie Aoki

通所 めじろ作業所

折り紙

わたしの
推し



消しゴム
ハンコ

わたしの
推し

あっという間に器用に彫りあげる、繊細な消しゴムハンコ！

小さな消しゴムに赤ペンで描いた文字をデザインカッターで丁寧に彫り、ハンコに仕上げる。「わくわく」の彫り文字も、ものの数分で仕上げてくれた勝木さん。20代の頃のオートバイ事故で脳に後遺症が残り、「高次脳機能障がい」と診断され、調布ドリームに通うようになった。活動の中で、仏像の下絵に和紙を載せて細筆でなぞり描いた繊細な作品がアート展で展示され、高く評価されたのだが、その後は手先の器用さを活かして消しゴムハンコを彫るようになっていった。今では週5日は外車専門の洗車業務をしながら、地域の催事で「消しゴムハンコ師」としてお客様から注文を受け、調布ドリームのメンバーとして頼りにされている。



かつき しんじ

勝木信次さん Shinji Katsuki

一般就労 + 調布ドリーム



休日のマラソン大会出場と練習、スポーツ観戦にと大忙し！

中部部3年生の時、マラソン大会で準優勝を経験してから、長距離練習を続けている酒井さん。特別支援学校卒業後、はあと・ふる・えりあに通所しながら、休日には数々のマラソン大会に出場。「完走した時が最高です」と言う。昨年はグループホームの職員も一緒にマラソン大会へエントリーしたが、酒井さんの足が速く、みるみる背中が遠くなったそうだ。酒井さんはマラソン選手だった谷川真理さんのファンで、葉書を送っては返事をもらう仲。また、スポーツ熱はマラソンにとどまらず、駅伝の応援、野球は阪神タイガース、サッカーはFC東京と、ファングッズで身を固め、TV観戦にも熱くなる。次のマラソン大会への出場に向け、体調を整え、準備中だ。



さかい やすゆき
酒井康行さん Yasuyuki Sakai

通所 はあと・ふる・えりあ + グループホームウィルステップ



わたしの
推し

マラソン

でんしゃの
しゃしん

自前のプリント電車Tシャツを着て、水泳では金メダルも受賞！

電車の写真を撮ることが大好きな竹内さんのお気に入り、地元の京王線。ガラケーを持って片膝をついた決めポーズで電車をパシャリ。かっこよく撮影できた画像は、Tシャツに印刷するサービスを使って、「プリント電車Tシャツ」をつくるのが趣味だ。「見て！これかっこいいでしょ！」と大好きなシャツを笑顔でみんなに見せながら、褒められると「やったー！うれしい！」と飛び跳ね、全身で喜びを表現する。股関節に障がいのある竹内さんは、高等部時代から専門の先生が指導する水泳教室 GAGANIに通うようになり、その練習にも励んでいる。昨年の東京都障害者スポーツ大会では、年齢別 25m 自由形で金メダルを受賞！



たけうち しょうご
竹内翔吾さん Shogo Takeuchi

通所 調布市希望の家 分場 + グループホーム us 西調布



わたしの
推し

好きで描く電車の絵が、事業所の自主製品グッズに！

車両を横から見た同じパターンで、沿線別に色のラインを塗っていく小泉さん。描かれた絵は、通所する希望の家本場の室内の壁一面に飾られている。小さい頃から電車のおもちゃを並べて眺めることが好きで、特別支援学校中等部の頃には、毎週末、母親にせがんで電車がよく見える川べりの線路近くに出かけて眺めていたという。高等部卒業後は施設で描く電車が職員の間で「かわいい」と評判になり、絵をワンポイントにしたメモ帳グッズが自主製品として販売された。得意な音読で日直の日は大きな声で出席をとり、集中して電車の絵を一気に描き上げた後は疲れてバタリと横になり、周囲のみんなを和ませている、愛されキャラだ。



こいずみ だい
小泉 大 さん Dai Koizumi

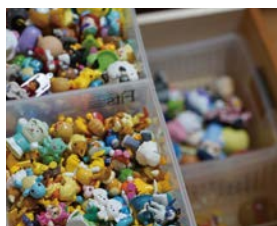
通所 調布市希望の家 本場

わたしの
推し

電車の絵

大好きなキャラクターのおまけをずらりと並べてご機嫌！

子どもの頃からキャラクターとパズルが好きで、1000ピースのディズニーパズルも仕上げていたという小山さん。特別支援学校卒業後、しごと場大好きに通い、技術が必要な「組み紐」やクッキー袋用のシール切り貼りなどを丁寧に仕上げています。きちんと並べ整えることが好きな小山さんがハマっているのは、入浴剤に付いてくるおまけ収集。週末にグループホームから家に帰ると、母親と買い物に出かけ、袋入りの丸いバスボム入浴剤を購入。浴槽の湯で溶けるバスボムの中から小さなキャラクターが姿を現す。週に2回だけ使うと約束しているこの入浴剤のおまけが、今では数え切れないほど集まり、小山さんはキャラクターたちに囲まれた部屋で過ごしている。



こやま ともこ

小山知子 さん Tomoko Koyama

通所 しごと場大好き + グループホームパンプキン

わたしの
推し
おまけ
あつめ



ブレイクダンスの「バトルオブザイヤージャパン」にも出場！

ブレイクダンサー Koking (コーキング) として数々のステージに立ち、高度な技を繰り出す泉さん。小学2年でダンスを習い始め、中等部の頃に出会った路上のブレイクダンスパフォーマーに魅了され、吸い込まれるように近寄る姿を見て、ご両親は泉さんを横浜までのレッスンに週2回、連れて行くようになった。今ではブレイクダンス最高峰の世界大会に向けた「BATTLE OF THE YEAR 2023 JAPAN」に出場、パラリンピック開会式バックダンサーにも選出されるレベル。ハードなレッスンは母親と励まし合いながら続け、「これからも頑張ります！」と元気に宣言。平日の仕事は、わかば第一事業所で自動車部品の組み立てを担当、サッカーや音楽も楽しんでいる。



いずみ こうき
泉 亘輝 さん Kouki Izumi

通所 わかば第一事業所



大手出版社の漫画雑誌で3度受賞した実力派！

小学校1年生の頃から漫画家に憧れ、宮崎県から上京して漫画専門学校に通い、卒業後は20歳から漫画家のアシスタントとして働いていた櫻さん。夜に目が見えなくなったり、自転車に気づかずぶつかってしまったことで、「網膜色素変性症(もうまくしきそへんせいしょう)」という進行性の難病であることがわかった。めじろ作業所に2年前から通い、週3回パソコンの練習をしながら、カレンダーやお便りのイラストを描いている。漫画作品は一人で原作から4作を仕上げ、大手出版社漫画雑誌で奨励賞2回と努力賞1回を受賞。「ずっと漫画家になるのが夢だったので、人に楽しんでもらえる漫画を、目が見えるうちにできるだけたくさん描きたいです」と、言葉を選びながら話してくれた。



さくら しょうま
櫻 翔真 さん Shoma Sakura

通所 めじろ作業所



漫画



調布市福祉作業所等連絡会は、
調布市内にある「障がいのある人の仕事や活動の場」
(障害者総合支援法の就労継続支援B型事業所や生活介護等の
サービスを実施する事業所)のほか、
「障がいのある子どもの療育と放課後・余暇活動の場」
(児童福祉法にもとづく放課後等デイサービス事業所等)などが
加盟している団体です。

「わくわ〜く」は、障がいのある幅広い年齢層の人たちが
「わくわくしながら働き、暮らせるよう」エールを送りながら、
一般市民の方々に福祉を知ってもらいたいと、春と秋の年2回、発行しています。

制作には団体内の有志が編集委員として参加しています。

今号は利用者の方々のパワフルな大好き推しパワーを
ワンテーマでお届けしましたが、いかがでしたでしょう。

ご感想など、ぜひお気軽にお寄せください！

